

今月の法話

一、御霊筆「神器三鏡、天鏡、地鏡、命鏡」

二、「修験と仏教（走湯修験と東大寺修二会）」

一、御霊筆「神器三鏡、天鏡、地鏡、命鏡」

節分が過ぎて暦の上では春を迎え、新たに希望と向上心をもってこの一年も善き年として参りたいと思います。しかし、元日より北朝鮮はミサイルを、ロシア・ウクライナの戦争は収まらず、また経済の動向も不安定となっています。昨年の霊視の如くならないことを祈ります。今月は昨年末に観音様より降りた御霊筆のお話をいたします。これは宗教をも超越した真理のお話です。

『神器三鏡 一切無量 伝来神変 諸法実相 大理無我 天鏡地鏡 命鏡変現
神鏡魔鏡 聖鏡也 三鏡実相 唯我転生 月鏡成仏』

「天地宇宙の真理に神器三鏡があり、これは天地宇宙の源である。三鏡には天鏡、地鏡、命鏡があり。それらは変現して神鏡、魔鏡、聖鏡となる。その鏡はすべてを写す。また、すべての世界に導く門となって魂の源をなすものである。

これからの世界は天変地異の苦難と共に生きるが、三鏡の真理にて救済されるのは唯一不空羅索観世音菩薩のみである。頭上に神器三鏡あつて、これは秘密神変の鏡である。故に九曜の鏡を持ち、衆生救済の本願を示す。輪廻転生は六道にあらず、六道は命鏡を磨く修行の姿である。四苦八苦は聖鏡とするための方便である。」

鏡とは宇宙の入り口であり他の世界へと通じる門でもある。古代には魂の復活や転生において鏡を用いることもあつたという。これは仏教伝来以前より行われていた宗教的儀礼である。鏡は私達自身の魂の光を表し、その光が強まるほど救済の光は広く届くのである。仏の御力であると共に、他世界へ導く入り口でもある。また、その救済されるのは唯一不空羅索観音のみであり、頭の上に九つの鏡を持ち衆生の生死を導く。魂はその鏡を移動していく。そのためには人が持つ命鏡を磨いて聖鏡にしなければならない。ゆえに四苦八苦や六道を方便として用いて人を修行へと導いている。鏡は研磨しなければ輝くことはないため、苦しみは常に傍らにある。なぜそのようなことをするのか。この命の光は救済する仏の光となりうるからである。

(口伝)

仏教は苦しみを少しでも少なくする教えである。人が苦しむことは当たり前という前提で話が進みます。私はなぜその真理を先に教えずにいたのか疑問でしたが、これは誰もが心のなかで感じているものであり方便に思えます。私たちは何のために生まれてきたのかとよく聞かれます。それは命を授かった以上、生きるところで生きていくこと。そして、少しでも自身の鏡を磨きあらゆる世界に輝きを照らすことなのではないでしょうか。ここで言う光とは慈悲光(思いやりと感謝の善光)不空羅索観音様の本当の姿はこれらの光を強め、衆生を救済する本願を持って生死を見守り、他の世界までも導く救済の菩薩なのです。心して帰依して下さいませ。

二、修験と仏教（走湯修験と東大寺修二会）

先日、初めて渋谷にある國學院大学にある博物館に伺いました。目的は走湯修験の展示。走湯修験とは現在で言うところの伊豆山神社を中心とした修験信仰のことで、その歴史は奈良時代にまで遡る程に古い。伊豆といえば修験道の開祖ともされる役行者の流刑先です。役行者は奈良時代に葛城山などで山岳修行を修めた人物で、弟子からの密告によって伊豆へ流刑になりました。しかし、流刑先でもその修行が終わることはなく伊豆は修験の道場となりました。

展示は修験の起こり以前からはじまります。「^{いんぎょ}袈裟釋文銅鐸」という教科書でよく見る形の銅鐸が最初の展示です。「仏教」はインドから始まる教えであるため、どうしても印度く中国く朝鮮を無視できません

が、これは仏教伝来より遙かに古いものであり、國學院の展示らしくあくまで「日本」という文脈からの視点だということがわかります。

日本人の「山」への信仰を語らねば、修験を語ることは出来ません。この銅鐸は山中に埋められたもので、そのような埋納物は決して山頂には見られないのです。なぜなら山頂とはカミの居場所であり、侵すべからざる場なのです。いまでこそ私達は、なんの気無しに山頂で写真を撮ったりしていますが、かつては足を踏むことさえ畏れ多いことであつたのです。現在では登山はレジャーとなり、山への敬意や神聖性は大きく削がれてしまいました。神聖性とは私達自身の敬う心との共鳴によって成り立ちます。心がなくなれば、消えてしまうものなのではないでしょうか。私達はこの心を強く保ち、また伝えていかねばなりません。

続いて『^{りやうのぎけ}令義解』第七にある「^{そうにりまろ}僧尼令」。こちらは当時の僧侶への規制です。僧侶が禅行修道のために山中に入るための手続きまで記載されているというから、僧侶が山中に籠もり修行するのは普通のことであつたのでしょう。東大寺の初代別当である良井上人も山中で修行されたという伝承が残っていますが、もしかしたら当時は記録が残っていたのかもしれませんがね。

さて何故「走湯権現と修験」の展示を見に来たかという、一つには当山では修験に関わる山や神社をお参りすることがとても多く、修験の中には現代ではすでに失われて久しい日本がこの千年間に渡つて培つてきた土にまみれた信仰の形をみることができるようになる為です。今回の展示でもその匂いを確かに感じることができました。

もう一点、私がこの展示に興味を持った理由。それは「走湯権現」です。数年前まで走湯という言葉は全く知りませんでした。しかし、私は修二会に三年目の練行衆として参籠し、神名帳の奉読をはじめて行いました。

神名帳は東大寺だけでなく薬師寺などの修二会でも唱えられます。東大寺の修二会はその中でも非常に多くの神々を勧請することで知られます。しかし、神名帳として最も有名なのは『^{えんぎしきしんなんぼ}延喜式神名帳』です。『延喜式』は平安時代に制定された律令で、そのうちの九巻と十巻が全国の神社や御祭神をまとめた「神名帳」です。そこには二千八百六十一の社と三千百三十二柱の神々が示されています。そしてそれらの神社や神が実は様々な形式格式によって区別されています。

では東大寺の神名帳はどうでしょうか。一から九段まで分かれており、第一段だけは〇〇大菩薩という形式で読まれ、二段目以降は〇〇大明神、最後の九段は〇〇御霊と段ごとに呼び方が異なります。つまりところそれぞれ一貫性を持った分け方をされています。かつ、神社の格によって分類されているわけでもないようです。それは延喜式神名帳で初めに登場する伊勢神宮がはじめに登場しないことから明確です。

では何をもって区別されているのか。第一段は「^{きんざうだいぼさつ}金峯大菩薩」から始まります。ついで「八幡三所」から始まる寺内の各社。次に「^{たかまのこじんじや}高天彦神社」「熊野本宮」「伊豆山神社（走湯）」と続きます。「高天彦神社」は葛城山に連なる金剛山の麓にある葛城修験の拠点であります。

このように「神名帳第一段」は修験系神社を勧請しているのです。これは修二会が本来修験の流れを強く汲んでいることや、東大寺が（正確には三月堂を中心に）修験を重んじていた側面を示唆します。かねてより、不空羂索観音様を信仰するお寺は修験とのご縁があると言っていますが、それは千二百年に及ぶ東大寺上院の信仰に裏打ちされているのです。自然を山を尊び、拝む気持ちを忘れてはなりません。それは皆さんの心を、魂を支え、強くしていただきます。合掌

南無日月光妙法蓮華經

※春のお彼岸 彼岸は悟りの岸です。私達とご先祖様を共に供養し、成仏の道すじをつけて功德を得る唯一の功德日です。ご先祖様に感謝と清浄の祈りを捧げてください。（三月十八日から三月二十四日）
追善供養のお申込みを受け付けております。

*二月のラッキーカラー、暗剣殺、五黄殺（二月五日〜三月六日迄）年間通してのラッキーカラーはピンク（桜色）です。

*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

| | | | | | | | |
|------------|---|---|------|-----|----|-----|----|
| 二月のラッキーカラー | 黄 | 緑 | シルバー | 暗剣殺 | 北東 | 五黄殺 | 南西 |
|------------|---|---|------|-----|----|-----|----|

【お知らせ】

- ① 三月の勉強会の日程 普賢光明寺・三月四日（土）五日（日）七日（火） 午後一時より
横須賀支部・鎌倉と合同となります。 小田原支部・三月二十六日（日） 午後二時より
- ② 東大寺修二会 会中祈禱のお申し込みは二月一日から二月二十六日、小田原勉強会開始時間までです。
- ③ 令和五年度の年会費は三月より受付を始めさせていただきます。よろしく願いいたします。 合掌

メモ

※二月六日から三月十五日まで、望月大仙住職は東大寺二月堂修二会（お水取り）に練行衆として参籠いたします。修二会は天平勝宝四年（七五二年）にははじめられ、現在まで途切れることなく続けられており、本年は千二百七十一回目となります。コロナ禍の中、世界平和、国家安泰、疫病終息を祈る練行衆の方々が無事執行、満行されますよう、東大寺末寺の信徒としてにもお祈りいただけると幸いです。また、昨年同様新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為、堂内と局（つぼね）での聴聞はできません。参拝される方はあらかじめ東大寺のホームページ等でご確認ください。

なお、お問い合わせがございました大仙住職の行中見舞いは三月十日までお預かりいたします。教に限りはございますが、御壇供（二月堂ご本尊十一面観音様にお供えた特別な御餅）、もしくは牛王でつくられた靈験あらたかな御札をご用意させていただきます。